



クラシキ キャリステージ CMBシリーズ

エアコン用防振台 取扱説明書

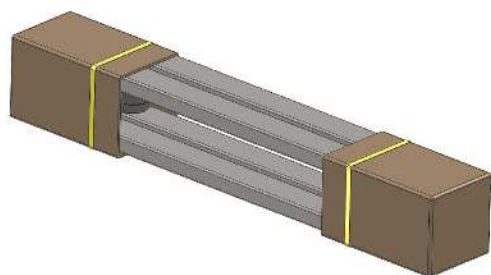
この度は弊社防振台をご採用いただきましてありがとうございます。
組立・据付工事を行う前に必ずご一読頂き、十分ご理解のうえ正しく施工を行ってくださるようお願い致します。

注意 (これらの事項を守らないと、ケガをする恐れがあります。また、十分な性能を発揮できなくなります！)

- ◎ この防振台は、一部お客様にて組み立てていただく工程があります。以下の内容をご一読のうえ、組立作業及び空調機器本体の据付作業を行なってください。
- ◎ 組立時に手、指などを挟まないように十分に注意して作業してください！
- ◎ 組立前後に関わらず、本体ユニット及び連結梁の上には乗らないようにしてください！
- ◎ 組立後の防振台扱いについて、連結梁を掴んでの持ち上げ・移動は行なわないでください！必ず前後の本体ユニット部を両手で掴んでの持ち上げ・移動作業を行ってください。
- ◎ 鋼材端面にて、指等を裂傷しないよう十分ご注意ください。
- ◎ 連結梁を組み付けないままご使用になりますと、架台部の十分な剛性が確保されないばかりか破損に至る可能性もありますので、連結梁の組込みは以下内容を熟読のうえ必ず実施ください。
- ◎ 連結梁のはめ込み確認を、下記内容に沿って忘れず行なってください。はめ込み具合が不完全な場合、脱落落下の危険があります。
- ◎ 組立後、クレーンで吊り上げないで下さい。分解落下して、ケガをする危険性があります。

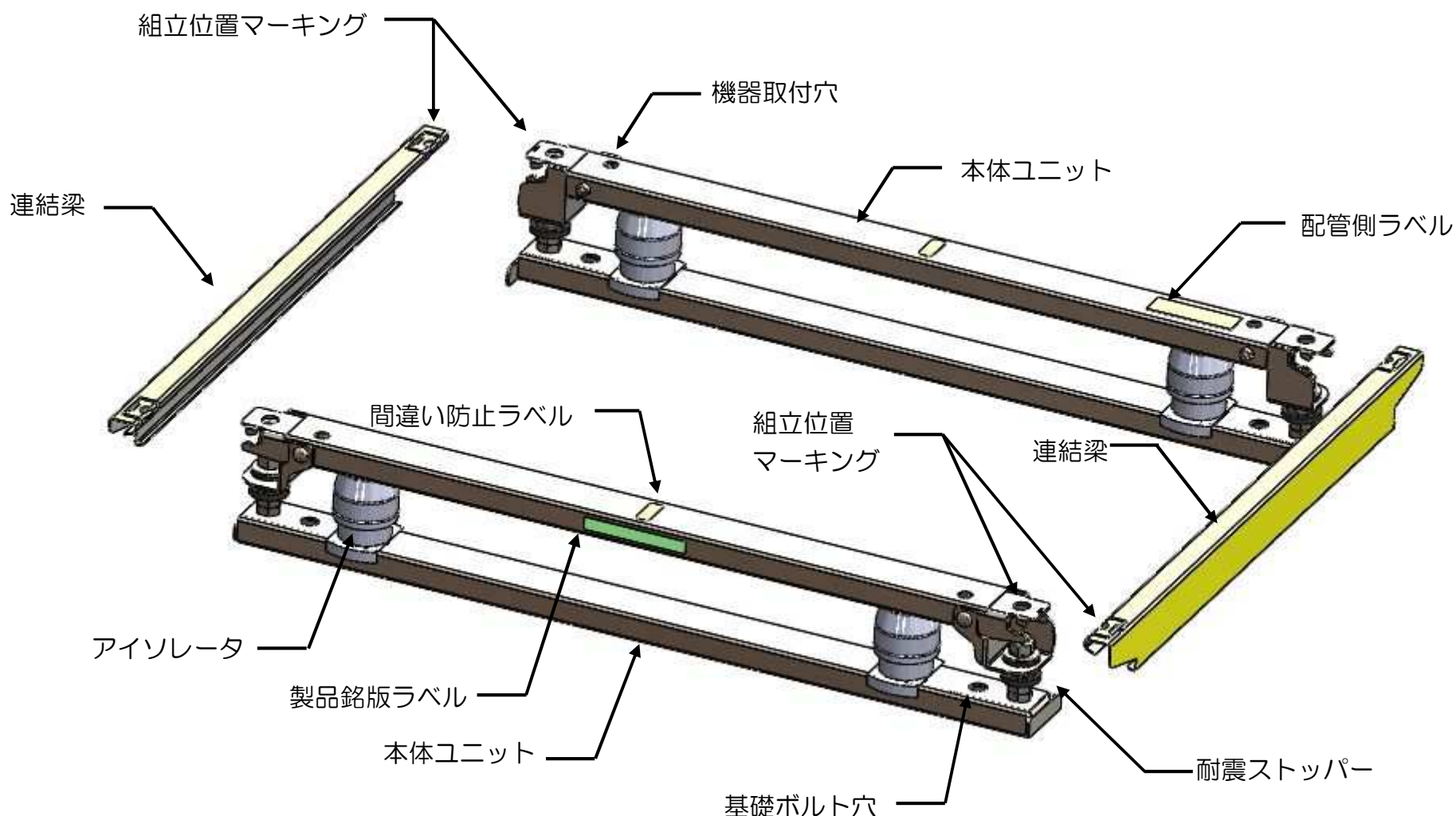
組立前の準備

梱包状態



- 開梱時に製品銘板ラベル中の品番がご注文の品と一致しているかご確認ください。
- 付属品をご確認ください

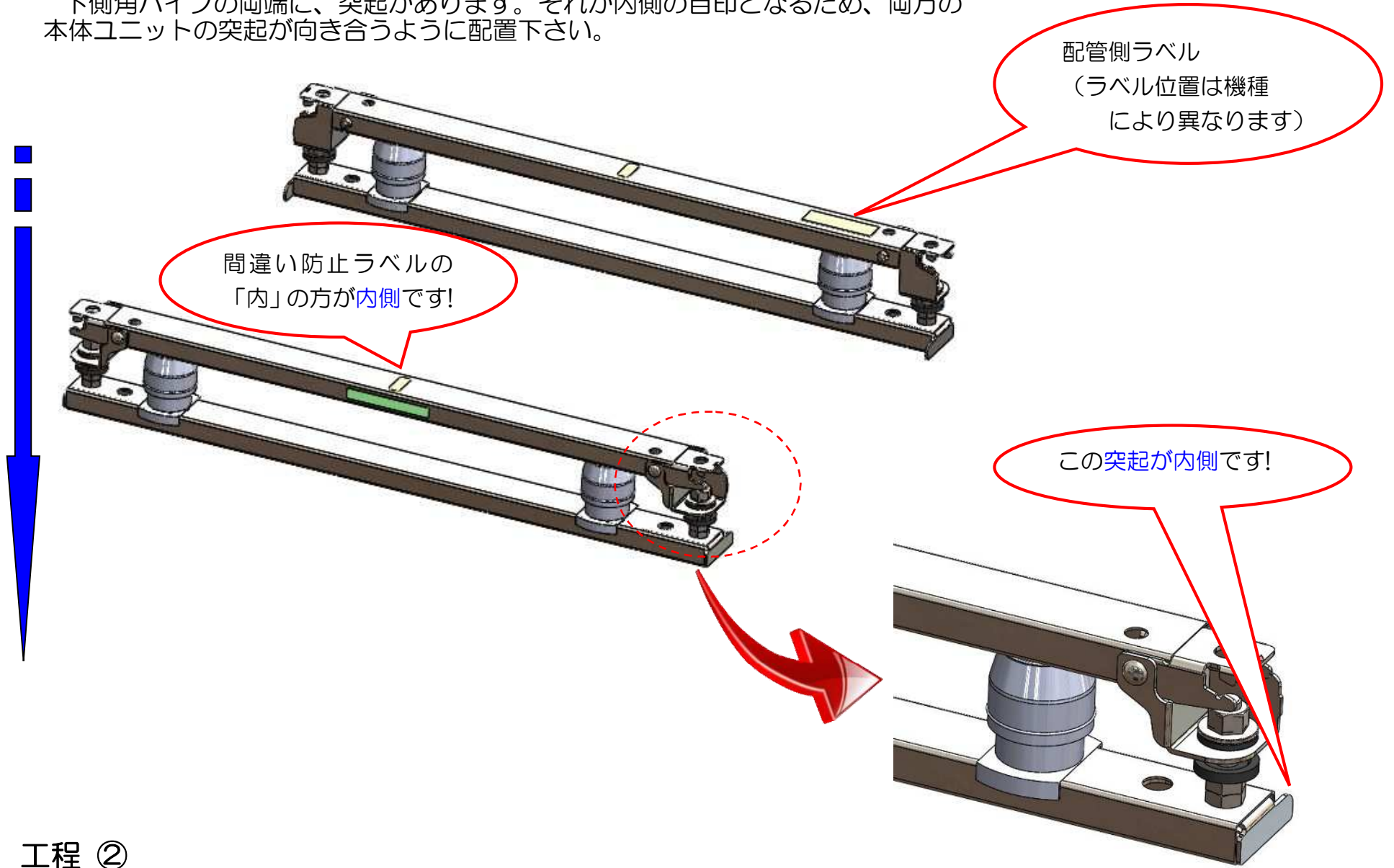
① 本体ユニット	: 2セット
② 連結梁	: 2本
③ 機器取付ボルトナットセット	: 一式
④ 基礎ボルト用角座金	: 4個
- 基礎ボルトは付属しておりません。お客様にてご用意ください。



防振台の組立

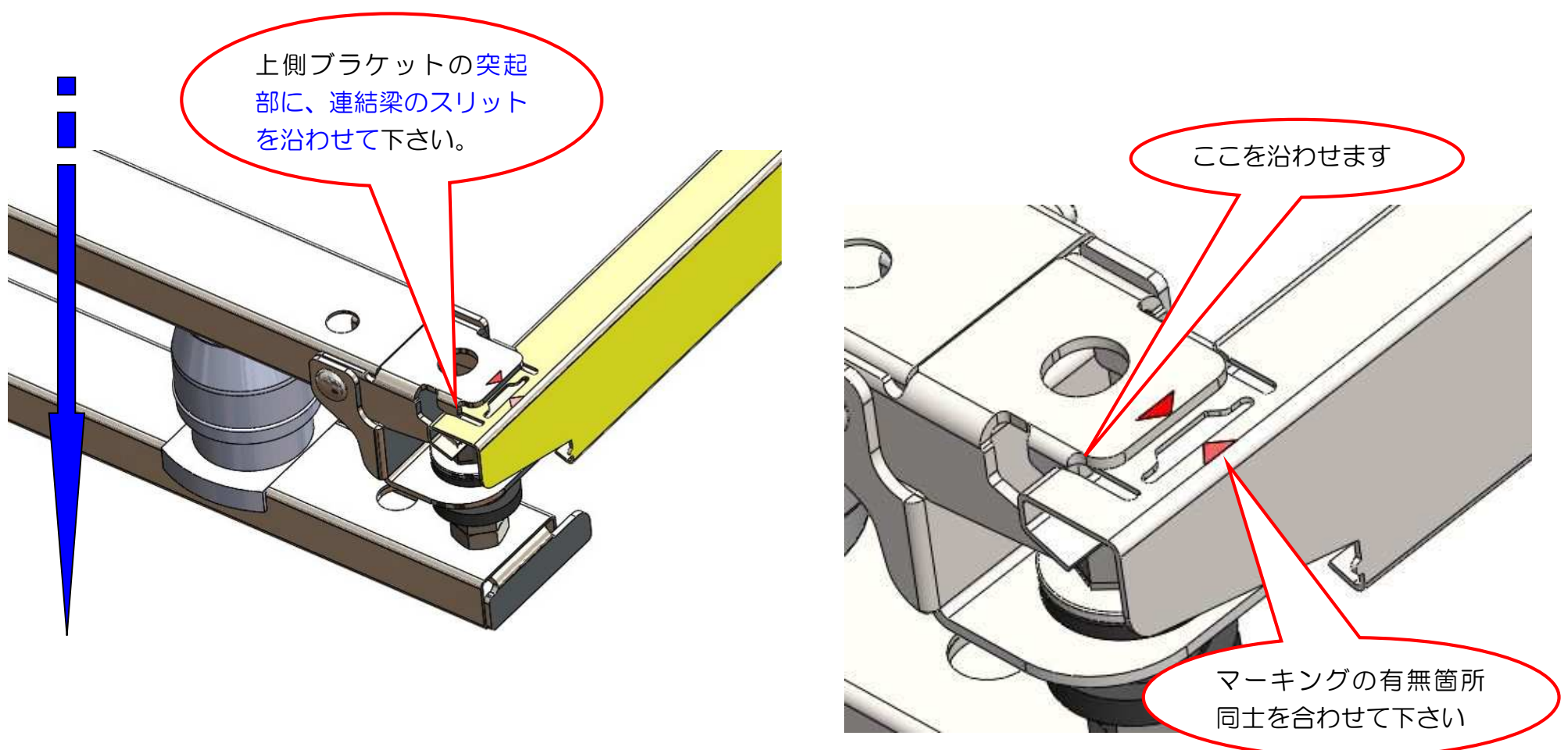
工程 ①

本体ユニットを平行に仮配置してください。
この時、防振台の上下、内外、前後、冷媒配管位置を間違えないようにしてください。
下側角パイプの両端に、突起があります。それが内側の目印となるため、両方の本体ユニットの突起が向き合うように配置下さい。



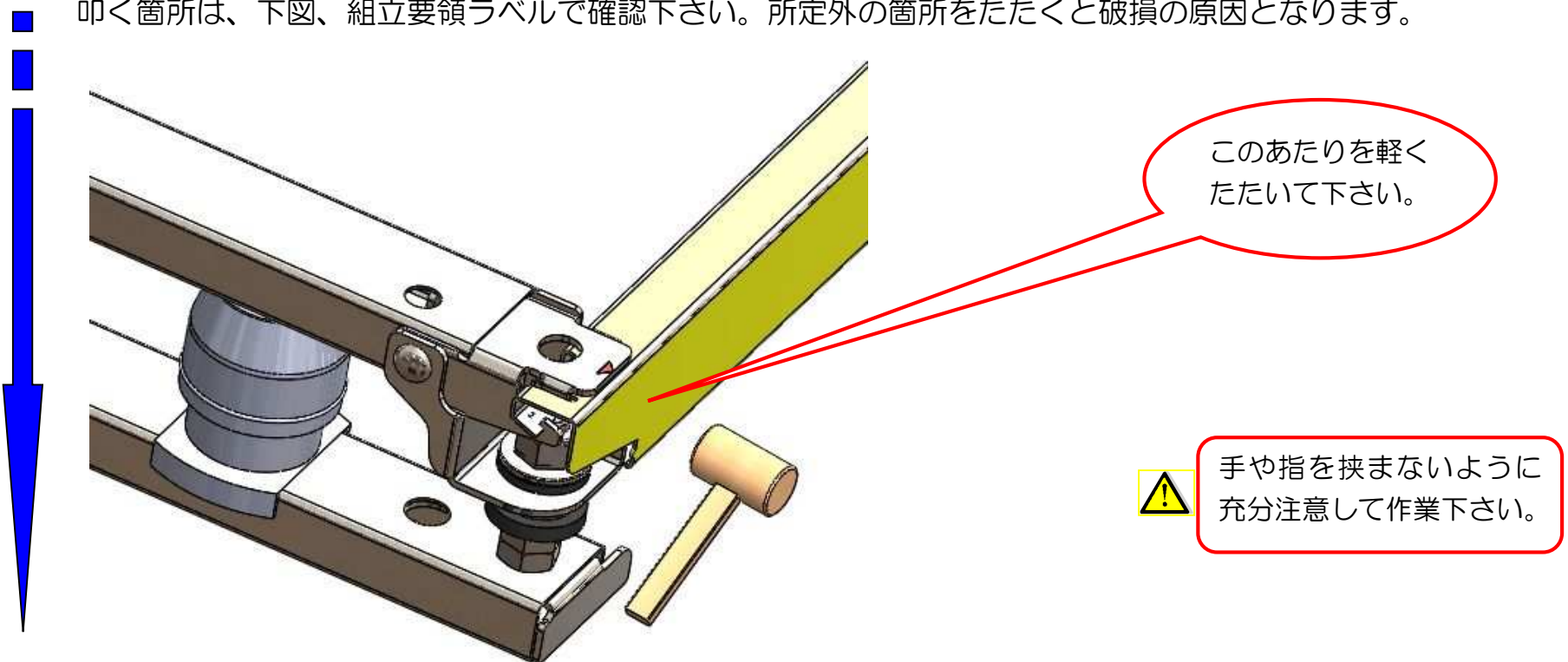
工程 ②

連結梁のスリットを、赤いマーキング同士が合うように本体ユニットのブラケット部に合せます。
組立要領ラベル、下図を参照し、方向、位置の間違いの無き様確認下さい。



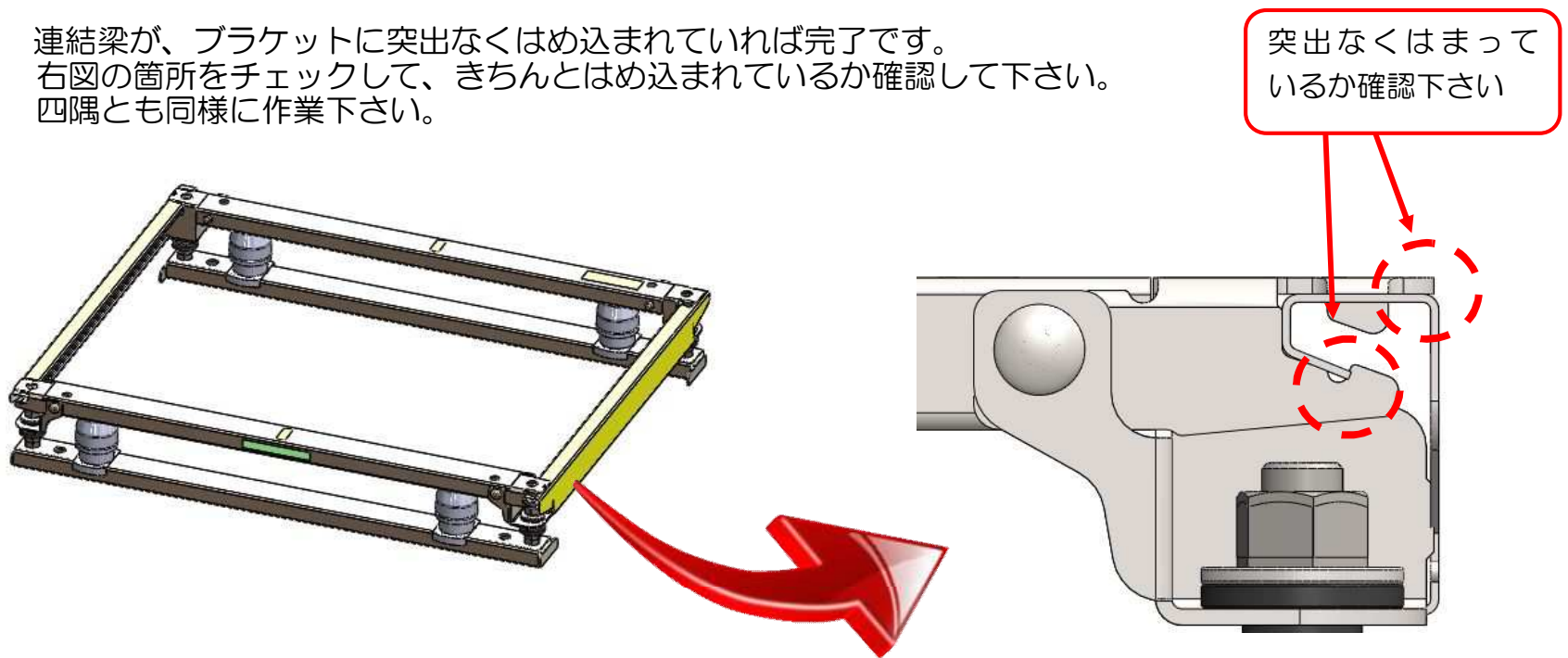
工程 ③

位置を合せたら、プラスチックハンマーなどで連結梁を軽くたたいてはめ込みます。
 (プラスチックハンマー、木槌などを使用下さい。金属製ハンマーを使用すると破損の原因になります)
 叩く箇所は、下図、組立要領ラベルで確認下さい。所定外の箇所をたたくと破損の原因となります。



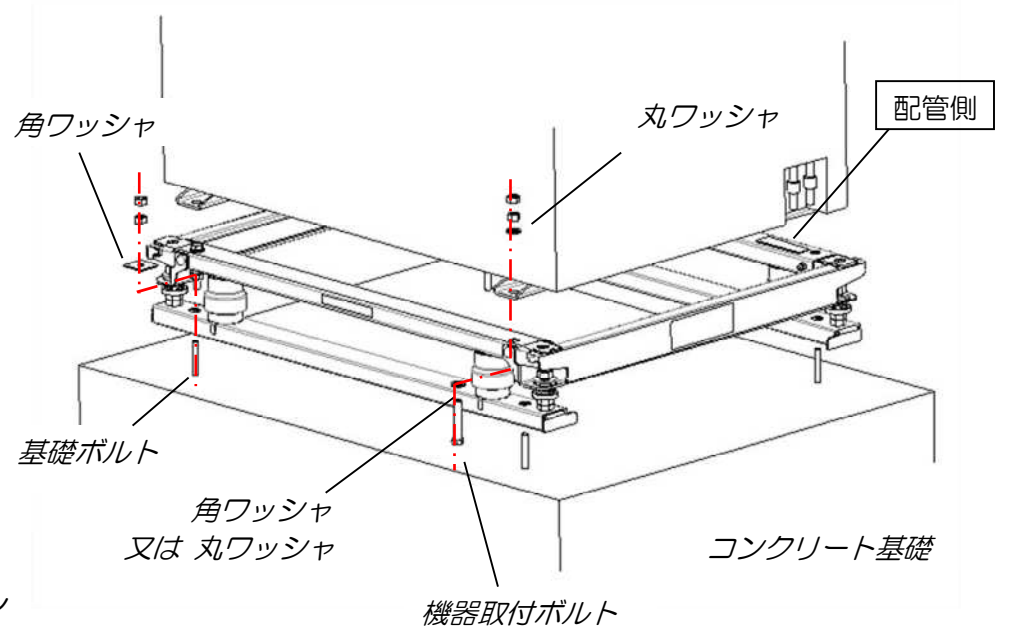
工程 ④ ~完了

連結梁が、ブラケットに突出なくはめ込まれていれば完了です。
 右図の箇所をチェックして、きちんとはめ込まれているか確認して下さい。
 四隅とも同様に作業下さい。



防振台及び機器の据付

- ↓ 機器と防振台の取付け方向を確認したうえで防振台を基礎上に設置し、防振台ベースを基礎ボルトで仮止めしてください。(機器の冷媒配管位置と防振台架台上の配管側ラベルとの位置に注意)
- ↓ このとき基礎及び防振台の水平をご確認ください。基礎面に凹凸がある場合や水平でない場合は、モルタルで補修するかライナーにて補正してください。
- ↓ 防振台ベースを基礎ボルトにて強固に固定してください。
- ↓ 配管側を確認しながら機器を搭載し、付属の機器取付けボルトにて仮締めしてください
- ↓ 機器と架台を機器取付けボルトにて強固に固定してください。
- ↓ 最後に揺れ止めゴム※3をゴムブッシュ下部に向けて廻しながら押し上げ、軽く締め付けてください。



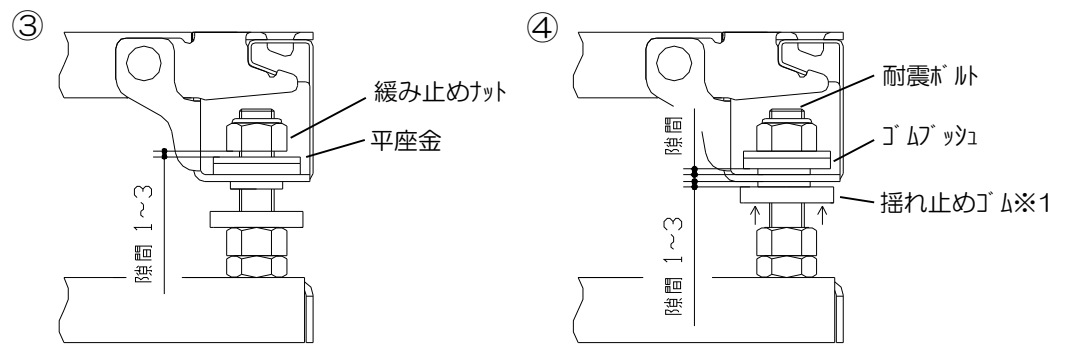
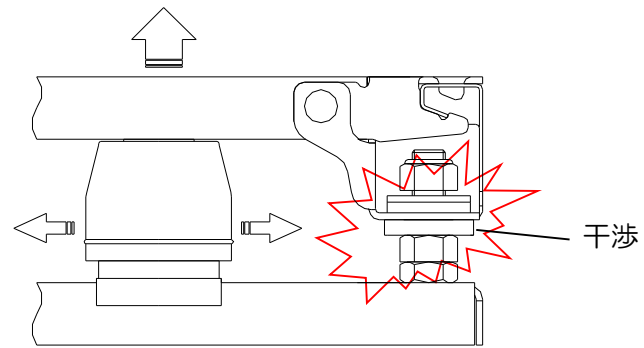
防振台レベル確認と調整作業

耐震ブラケットと揺れ止めゴムが干渉するほど傾いている場合は調整が必要となります。

- ① 緩み止めナットを十分に緩めて機器及び架台の水平を確認してください。
- ② 傾いている場合は架台をジャッキアップし、架台が低くなっていた側にアイソレータを移動させて水平となるように調整してください。
(ばねケース上を手でつかみ下へ押し下げ、ケース本体を多少傾けながら移動させると、比較的楽に作業が行えます。)

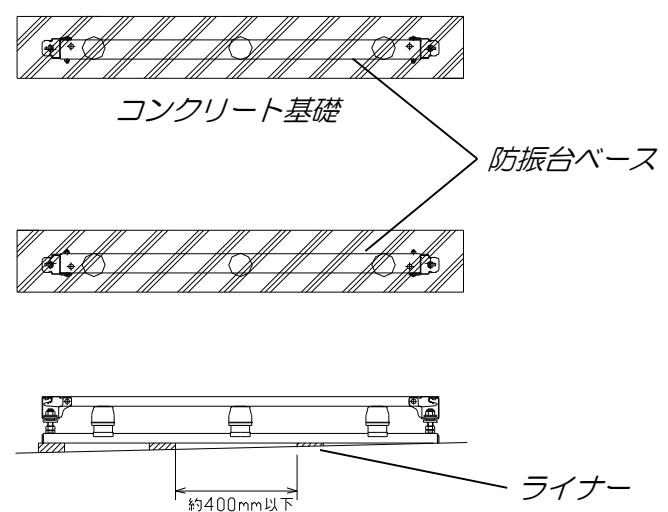
連結梁には絶対ジャッキをかけないで下さい。破損の原因となります！！

- ③ 架台の水平が確認出来たら、緩み止めナットと平座金との隙間が1mm~3mmに調整してください。
- ④ 最後に揺れ止めゴム※1を平座金と緩み止めナットが軽くあたるまで上げてください。
(揺れ止めゴムは形状が異なる場合があります)



— 基礎施工上の注意事項 —

- 基礎はレベルの出た全面基礎とし、ベースと密着するように平滑に施工してください。(右図参照)
- 基礎据付面に凹凸がある場合や傾斜が付いている場合は、モルタルにて補修するか、防振台ベースとの間にライナー等を挿入して補正してください。
(ライナー間隔は400mm以下)
- 基礎ボルトは耐震基準に準じて埋設してください。



— 配管との接続時注意事項 —

- 配管の接続は、Z曲げやループ配管等にて振動を吸収する施工をしてください。
- 配管などの重量は防振台設計には含まれておりません。
また防振台に無理な力が加わらないように十分サポートしてください。
- 溶接作業などの火花が当たらないように対策して作業してください。

ご注意

- ※ 廃棄する場合は本体ゴム部：産業廃棄物、その他：リサイクル鉄材又はリサイクル樹脂材としてください。
- ※ 作業時の安全確保には十分な配慮をお願い致します。
- ※ 予告無く本体の構造等を一部変更することがあります。



倉敷化工株式会社 産業機器事業部

<http://www.kuraka.co.jp/sanki/>

〒712-8555 岡山県倉敷市連島町矢柄四の町4630 TEL(086)465-1715(代)

10113518E(2021.1)